## 「自分を回復する~呼びかけられる世界」

## 社会は、人間の姿が社会に反映されて、個人が抱える様々な課題が、そのま

ま同時に社会の姿となっています。

●「誰でもない私 |が「私そのもの |に

現代、多くの人びとは、他人から干渉されることをいやがりますが、同時に 他人とつながっていくことを求めます。普段は気づかない矛盾したあり方で す。

昔、こんなお説教を聞きました。ある人が、雑踏の中で、突然、自分の名前を

呼ばれて、振りかえると、懐かしい知り合いの顔がそこにあったというのです。 まったく知らない人びとの中で、自分の名を名のることなく、知られることな く、「誰でもない私」が、旧知の人との出遇いという出来事で、懐かしい思い出

と共に、「私そのもの」を取り戻す、そういうことがあるというお話しだと記憶し

ています。この場合の旧知の人とは、もしかしたら一番大切にしている「私そ

私自身、少し違った形で、似たような経験をしました。人の顔や姿が見える 町の中ではなく、言葉とその響きだけで成り立つ「電話の会話」の中の出来事

でした。

●メタ・バースから現実へ

のもの」の反映かも知れません。

●「嫁脅しの面 |を我が身に寄せる

きに通います。

ります。

吉崎本願寺に「嫁脅しの面」という逸話があります。

寺の「代表役員住職」として、浄土真宗本願寺派の本山・京都の本願寺に電 話をかけ、数分で所用を済ませ会話を終えようとしていました。電話口で対応 してくださった方は、私にはまったく面識がありませんでしたが、「東京の万行 寺さんですか? 私は、先年、坊守さんと、ご一緒に研修を受けました。その節

は大変お世話になりました」といわれました。 突然、「私」の世界はまったく変わりました。声は弾み、見えていないにもか かわらず表情はゆるみ、身構えるような気分が一気に無くなり、その後の会話 は、今までのような事務的なものでなくなり、「ごいんげさん」の応対になった のはいうまでもありません。

メタ・バースという言葉があります。メタ(超越した)とユニバース(世界)の 合成語で、インターネット上の仮想三次元空間\*のことです。 今や、ネットゲームなどで多くの人びとは、その仮想空間に心をゆだね、身 を置いていると言えます。しかも匿名ですから、電話の会話よりもさらに現実

から離れた空間の中で「誰でもない私」を演じている世界ともいえるでしょう。 まったくの想像ですが、私たちは、昔も今も、そんな仮想空間、虚仮の世界 に生きている、あるいは生きようとしています。しかし、そこでも、私の「いの ち | そのものが、先ほどの電話のやり取りのように、ふと [私そのもの | を取り 返すことがあるのかも知れません。

ていました。 その吉崎から二里ほど南の十楽村に、与三次と清という百姓夫婦がいまし た。清は、夫に死に別れ、二人の子に先立たれるなど、諸説ありますが、何か きっかけがあったのでしょう、ついに蓮如の説法に自分の生き甲斐を見いだ し、昼のきつい農耕の仕事を終え、日が暮れると毎晩、吉崎本願寺へ説法を聞

移転を余儀なくされた室町時代、本願寺は福井県吉崎の地にありました。

第八代宗主蓮如上人(1415~99)の時です。蓮如は、精力的にその教線を

延ばしたことで有名です。説法をし、談合を勧めました。といっても、現在の建

設会社の汚職につながる談合ではなく、話し合いの中にお互いの信心を確か

めることです。さらに『御文章』(『お文』)という手紙による文書伝道を展開し

て、村の神社に奉納してある鬼の面を自らつけ、小谷の崖の上で清を待ち伏 せします。 清が通りかかると突然、崖から鬼の姿を現わし、 「そこの女、姑の言葉に改心すればその罪は許すが、改めなければ食い殺す ぞし

家に帰ると姑は怒り苛立ち、鬼の面を取ろうとしますが、なぜか面が顔の皮

膚に張り付き取れなくなり、また極度の緊張からか身体が硬直して動けなくな

「食まば食め、食らわば食らえ金剛の、他力の信は、よもや食むまじ」

ずば、日頃からそれが気に入らず、計画を練り、清が吉崎へ行くのを見越し

そこに清が帰ると先ほど崖で出くわした鬼がうごめいているわけです。清も 驚いていましたが、「小谷の鬼はわれなり」というので、義母の手を取り、「吉崎

と言い、念仏を称えつつ通り過ぎたといいます。

と襲いかかります。すると、清は、

のに気づいていません。

白道の喩え)。

を聞いてナンマンダブと念仏申したら鬼の面が落ちた、という通俗的な話が 伝えられています。

この話では、嫁と姑は一緒に蓮如上人の所へいくと、「これ婆さんよ、お前

のような鬼のような悪人でも、阿弥陀如来は見捨てぬぞ、一心に念仏を称え

れば救われる」と説法されて、姑は自分のした行為を恥じて念仏申すと、やが

にいって後生の一大事を聞きましょう」と勧めます。その言葉に今まで動かな

かった手足が動くようになり、一緒に蓮如上人のもとを訪ね、念仏のおいわれ

て嘘のように面は、顔から外れたということになっています。その時、このお嫁 さんはどんな心になっているのでしょうか? 真宗大谷派の谷田暁峯先生が、この話を次のように教えてくれ、私は本当 にそうだったと頭が下がり〈痛み〉ました。そして、だからこそ、爽快な安らぎ 〈安堵〉を頂きました。

今まで私たちは、これは根性の悪い姑さんの回心した話だと思って聞いて

いるのではないでしょうか。もちろん、それも一つの深い受けとめです。しかし

その時、私の心はどうなっているだろうか?という自分の問題が問われている

このお嫁さんのように、親鸞さまの教えに心を寄せ、さらに、お念仏を称え

つまり、自分が念仏を称えられるようになったと思う心にしがみつくと、念仏

をしない者や仏法を聞こうとしない者が気になって仕方なくなり、聞かせてや

ろうというところに立っています。そうなると、あいつはけしからん、あいつは

未だ未だだ、と気づかぬうちに責める気持ちで相手と向き合っているのです。

るようになった者は(気づかないうちに)、お参りに来ない者を批判します。例

えば、こんなお話は家の嫁に聞かせてやりたかった、となります。

その心でいる限り、私にとって仏法を聞かせてやりたい奴は鬼であり、念仏 を称えさせてやりたい奴が鬼になっています。このお嫁さんも、お姑さんに念 仏を称えて貰いたいと思っていた時、随分、思い上がった気持ちになっていた のではないでしょうか? その時、「そういうお前さんの心が鬼になっている」

と教えてくれるのが、私を気づかせ、共にいのちを認め合える世界へ立たせて

くれる念仏です。それを親鸞さまは、「本願招喚」の念仏と教えています(二河

もし、自分を正当化するために念仏を道具にしたならば、いのちはせめぎ合 い、争い合うだけです。私の称える念仏がまことであるとき、そのまま私へ喚 びかけている念仏だったと深まるのだと親鸞聖人は教えてくれています。 念仏は、如来の「本願招喚」というのは、「気づけよ、目覚めよ、身の程知れ よ」と阿弥陀如来の本当の願いは、私に向かって、そんな狭い世界に閉じこ もっていないで、もっと広い世界にいらっしゃいと招き、喚びかけてくれている と親鸞さまは示しています。 私が鬼だったという自覚こそが、お互いを認めあえる世界、すなわち浄土と いう世界に私を今、立たせてくれ、生まれさせてくれています。 谷田先生は、「鬼の面は、姑がかぶっているのではなく、お嫁さんが、姑さん を鬼として見ているのです」、だから、私が鬼だったと気づいた途端に、お姑さ

んはそのまま、仏さまの顔になったということですと教えてくれます。

室町時代の人も、現代の私も、科学的技術で作り上げたメタバースとは

江戸時代、地方のお寺では、報恩講が始まる朝、住職がお衣[ル:ころも]を

ととのえて、村の西はずれの峠に親鸞さまを迎えに行ったといいます。一人芝

居なのですが、「ようこそお出ましいただきました」といって、お寺までご案内

をして報恩講の法座が始まり、終わるとまた村の西はずれに見送りに行って

「ようこそ有難うございました」と挨拶して、それで報恩講を終えるというしき

違った、いつわりの世界、虚仮の世界に自らを閉ざしているように思いました。

これは一体どういうことなのでしょうか。私たちは、自分の都合を求め、手に

に思います。

たりがあったそうです(信楽峻麿『浄土和讃講話』より)。

●親鸞さまをお迎えする、本当に遇う

いれることと引き換えに、何かを忘れ、手放しているのでしょうか。また逆に、 私たちは、大切な「できごと」を共有、分け合うときに、何かに出遇い、「私その もの」が成長しているのでしょうか。 真宗の教えを学び、念仏を習慣化すると、称える名号が如来さまの呼び声 と聞こえてくることを聞名といいます。 この聞名という実感が信心であると「聞即信」「信巻」とも明かされます。 さらに親鸞さまは、「信ずる心の出でくるは、智慧のおこると知るべし」『正

像末和讃左訓』とお示しです。信心を恵まれると、今まで、気づかなかったこ

と、見落としていたこと、覆い隠していたことが知れてくる、分かってくる智慧

が起こるというのです。呼び声と共に、私は「私そのもの」を回復していくよう

「人のいうことを ナルホドそうかと うなずけたら 小さな花が咲くようであるし 何か そこには

榎本栄一さん(1903~98)という念仏詩人が、

との出遇いが大切です。

はいずれも資料・茶菓代として千円です)。

「ナムの会」は一月と十二月は休会します。

※もともとは、米国SF作家ニール・スティーヴンスンの1992年の著『スノウ・ クラッシュ』において、「インターネット上の仮想世界」として用いられた名称 が由来とされています。

と歌っておられます。お互い人間として芽を恵まれ、念仏の信心という花を

咲かせることのできる我が身を生きています。そこには、「いのち」を育くむ光

合掌 万行寺第十八世住職 釋靜芳(本多 靜芳) ※ご縁のあったあなた! 第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で 『親鸞様・御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」 で『親鸞様·御手紙』を学びにいらっしゃいませんか? お待ちしてます(会費